

審査の結果の要旨

氏名 富田 真紀子

本研究は健康行動実施における個人差を理解し、今後の健康行動促進に役立てるために、①社会的学習理論に基づき、健康価値測定的重要性とLOCの有効性の検討。②LOCとSEの関係性において、InternalでSEが高い者が積極的に行動を取ることを検討。③主観的コントロールと関連し、健康行動に影響をあたえるだろうと考えられる個人の病気・死別経験、健康不安を取り入れた健康行動予測モデルの構築。を目的とし調査・分析を行い、以下の結果を得ている。

1. 健康価値高低によるコントロールの影響力比較モデルの構築

社会的学習理論を考慮し、対象者を健康価值得点で低群・高群の2群に分け、両群を同時に分析する多母集団比較を行い、同一のモデルを構築した。健康価値を考慮した場合、一般のコントロールからの予測でも十分ではないかという仮説を検証するために、一般のコントロール(LOC, SE)と健康領域特有のコントロール(HLC)には別々の潜在変数を仮定した。このモデルの適合度はGFI=0.956, AGFI=0.922, RMSEA=0.041であり、データとモデルの適合がよいことが示された。

MODEL1において健康価値の高低による因果係数を比較したところ、CONTROLからHEALTH BEHAVIORへのパスの値のみが健康価値高群の場合に上昇し(低群0.258→高群0.410)、HLCからの因果係数は両群でほとんど変わらなかったことで健康行動の予測において、健康領域のHLCよりも一般期待であるLOC・SEが有効であることが確認された。このことから、健康に対するコントロールのみを測定するよりも、自分の行動へのコントロールの所在を自身に置き、かつ自己への効力感が高い個人であるならば、健康価値を高めることで健康行動を積極的にとるよう働きかけることが可能であると考えられた。以上のように健康価値の高い場合にのみコントロールが行動を予測し、一般期待LOC・SEが有効であると確認された。

2. 健康行動予測に関する因果関係モデルの構築

MODEL2 においては対象者を一つにまとめ、全体で最も健康行動を規定する要因を明らかにするためのモデル構築を行った。健康行動との関係をもっとも説明できるモデルである MODEL2 は適合度：GFI=0.979, AGFI=0.958, RMSEA=0.040 と高い値を示した。

MODEL2 では個人の経験は健康不安を高め、その健康不安がコントロールや健康価値に影響を与え、健康行動に間接効果を持つと共に健康行動の一つである PROMOTION に直接的に影響を与えることが確認された。PROMOTION は他の 2 行動に比べると病気を予防するというよりは更により健康状態を高めようとする行動であり、健康不安が高いと病気への恐れから単に病気を予防するだけでは満足せず、常に良い健康状態を求めるため健康促進的な行動に直接影響を与えるためと考えられた。また CONTROL と VALUE は共に ANXIETY からの影響を受けることとなり、自己の健康が脅かされるのではないかという不安を抱くことで、自分の努力によって健康は得られないと考えに至るためコントロールの減少につながると解釈された。また、健康が脅かされるのではという不安から健康の重要性を知ることとなり健康価値が高くなると考えられることから個人の健康不安は直接健康促進的な行動に影響を与え、同時に、コントロールや健康価値に影響を与え、間接的にも健康行動に影響を与えていることがわかった。よって MODEL1・MODEL2 の結果から、本研究では Rotter の社会的学習理論における expectancy-value model が確認され、また、LOC と SE を同時に考慮することで健康行動の予測が可能となることが確認できた。

以上、本論文では個人の健康行動に関する因果モデルを検討した。これまでの先行研究において、コントロールのみを扱ったものは多々あるが健康価値とコントロール信念を用いた例は未だ少なく、また LOC・SE の関係性に着目した研究もほとんどなく、一般期待の有効性や個人の病気・死別経験や健康不安などを取り上げ、各変数の相互関係を考慮し体系的に研究を行った研究は見られない。よって本研究は新しい観点から研究を行っただけでなく、仮説を確認するためのモデルからも高い関連性がみられていることから、今後個人の健康行動理解のために重要な役割を果たすと考えられ、学位の授与に値するものであると認められる。